

- 日時：令和6年12月20日（金）13:15～14:30
- 場所：東京都立調布北高校
- 参加者：11名（1年生8名、2年生3名）
- 講演者：ムーンショット目標5
藍原朋弘、村田光陽、松長 諒

■概要：

①**研究者からの講演**：「食べものとしての昆虫」をテーマに3名の若手研究者から、昆虫食に関する事実について、各自の昆虫とのエピソードや研究テーマを交えながら紹介。

●村田氏からは昆虫は伝統的に食べられていること、昆虫食と環境問題、国際連合食糧農業機関が公表した昆虫食の報告書、ムーンショット事業、コオロギ飼育の最適化について、

●藍原氏からはAIを用いたコオロギの行動解析、社会実装を目指す学生団体の「K-1タスクフォース」活動について、

●松長氏からはトノサマバッタ用の乾燥飼料の開発について、説明された。

②**グループディスカッション**：3グループ(生徒数名+研究者1名)に分かれ、カンボジア等での在外研究の様子、高校でのカイコの研究、コオロギの食感と料理法、農学部の各学科内容等、研究から学生生活まで幅広く活発な意見交換が行われ、予定より15分延長して終了。

■交流会後の生徒の感想（抜粋）

- ・昆虫食は、環境負荷の軽減やタンパク質不足の解消に大きな可能性を秘めているんだと知った。
- ・昆虫食を広めた先に、環境問題を解決できるかもしれない、という考え方がすごく素敵だと思った。
- ・昆虫食はあくまで「食べ物の1つ」としての提案であることや、その可能性が信頼できるデータを基に評価されたものであること、事実を伝えることがいかに重要であるか改めて考える機会になった。
- ・大学に通いながら会社を立ち上げ、こんなにグローバルな研究ができるなんて驚いた。自分の好きなことを研究している姿から、大学生活がとても魅力的に感じた。



①若手研究者講演(村田氏)



①若手研究者講演(藍原氏)



①若手研究者講演(松長氏)



②グループディスカッション



校内での実施告知



持ち込んで頂いたコオロギ体験

